

子どもが作る
親は手伝わない



「弁当の日」が やってきた

第3回いばらき食と農の交流フェスタ

2009.6.28 (Sun)

10:00am~3:00pm

会場 つくば市市民ホールやたべ

(つくば市役所本庁舎正面)

〒305-0861つくば市谷田部4711

TEL:029-837-1131

プログラム

10:00 開会 大ホール

10:10

第1部 記念講演

「「弁当の日」が家族を救う」
“心の空腹感”を訴える子供たち



家族のきずなを
取り戻す
感動のお話
テレビで放映
大反響!



香川県綾川町立綾上中学校長

竹下 和男 先生

*講演の資料代500円大人のみ

12:00

第2部 交流会 (大会議室)

12:30

子供が作る弁当コンテスト

先着30名 (調理室)

14:00

食と農の景品が当たる

大ビンゴ大会 (大会議室)

15:00 閉会

*フードマイレージ、食品安全性
チェックコーナーもあります。

子どもが作る「弁当の日」とは?

「えーっ!お母さんが作るの?学校給食回数を減らすため?」・・・いえいえそうではありません。

子どもが作る「弁当の日」とは、2001年、香川県の滝宮小学校校長だった竹下和男さんが、子どもが育つ環境に「くらしの時間」を取り戻すため考案しました。滝宮小学校での弁当の日決まりは、「子どもが作る」こと。

“弁当の日”を通して、育つ環境が変わった子どもたちには、こんなことが起こりました。

いくら見かけが悪くても「自分で作った弁当」をうれしそうに食べる。朝から友達と弁当の見せ合いっこをする。両親や祖父母に料理の作り方を聞くようになる。親兄弟の弁当まで作るようになる。親が病気したとき、食事を作ってあげるようになる。

食事を作る家族や給食調理員の思いが分かり、残食がなくなる。。。そう。家族の「絆(きずな)」がもどり、生きること、食と農がつながったのです。

子どもたちの「1人前になりたい」「家族の役に立ちたい」「ありがとうって言われる存在になりたい」という思いを叶えるきっかけ、それが「弁当の日」。

主催：第3回いばらき食と農の交流フェスタ実行委員会

(参加団体) JA茨城県中央会, JA全農茨城県本部, JA茨城県青年連盟, 茨城県JA女性組織協議会
茨城県生活協同組合連合会, 茨城県農業団体協議会, 茨城食健連

問い合わせ/実行委員会事務局 茨城食健連 大内 茨城県東茨城郡茨城町上飯沼626 TEL 029-292-8732
fax 029-292-8733 E-mail ibanou.yoshi@wish.ocn.ne.jp HP http://ibafh.moo.jp